

研究会

「見落とされてきた真のニーズを汲み取り”さりげなく”デザインする方法とは

・高齢者または障がい者とその家族の「自分らしい生活」に向けた住宅改修を通じて-

CPD 申請中

本研究会では私的な空間である住宅のユーザー・オリエンテッド・デザインをあらためて考える。その切り口として、高齢期などの障がいの発生に伴い出現する住宅のバリアに対し、そこで行われる住宅改修を取り上げる。住宅改修は生活の質を左右するものであり、介護保険制度にも位置づけられたが、実際には手すりの設置やトイレ改修といった「点」として問題を捉える傾向にあり、住空間全体のイメージがつかみにくい高齢者または障がい者とその家族（以下ユーザー）は、住宅改修後に自分たちの真のニーズに気づくこともままある。このような見落とされてきた真のニーズをいかに汲み取り、事後的な対応策としての住宅改修をどの様に”さりげなく”デザインするのか。問題をより立体的に空間全体のこととして捉え、ユーザーや福祉・医療関係者と共にその解決を試みている建築専門職の方々を中心に、その取り組みをご講演いただく。高齢者または障がい者の特性を踏まえ、個別性が高く多様なユーザーの「自分らしい生活」の実現に向けた住宅改修における”さりげない”デザインとはどのようなものか、その方法を探りたい。

主催：建築計画委員会 ユーザー・オリエンテッド・デザイン小委員会

日時：11月22日（金） 18:00～20:00

会場：お茶の水女子大学 本館 2階 209室

内容

司会：菅原 麻衣子（東洋大学）

1) 「高齢・障がい者の住宅改修ニーズの整理」：西野亜希子（東京大学）

2) 「住宅改修アドバイザーとして関与した中でみえてきた高齢者または障がい者向け住宅の問題点」：大宇根成子（NPO 法人町田すまいの会）

3) 「デザインされた住宅改修とは何か」

：吉田紗栄子（NPO 法人高齢社会の住まいをつくる会）：

ディスカッション（講演者+司会）

まとめ：西出 和彦（東京大学／小委員会主査）

定員：40名（申込先着順）

参加費：会 員 1,500円 会員外 2,000円 学 生 1,000円（資料代含む）

申込方法：氏名、所属、連絡先、参加種別を明記のうえ 11月15日までにメールでお申し込み下さい。

申込み・問合せ：西野 亜希子（東京大学） e-mail：tanisino@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp